

キャリアの視点に立った支援の在り方 ～「なぜ・なんのために」「何を」「どのように」を 大切にした授業づくりをとおして～

千葉県立夷隅特別支援学校

電話 0470-86-4111

FAX 0470-86-3341



研究のポイント

文部科学省委託事業の研究協力校として昨年度より3年計画でキャリア教育の研究に取り組んでいる。今年度は「キャリアの視点に立った学校生活づくり」に焦点を当て、「なぜ・なんのために」「何を」「どのように」の視点で学習活動を計画したり、見直したりすることで学習活動の充実を図ると共に、児童生徒のキャリア発達、教員のキャリア発達を目指す取組を行った。

■学校の概要

<http://www.chiba-c.ed.jp/isumi-sh>

本校は、昭和55年に知的障害のある児童生徒を対象とした養護学校として開校し、平成19年4月に千葉県立夷隅特別支援学校となった。いすみ市、勝浦市、御宿町、大多喜町を通学区域として、小学部、中学部、高等部が設置されている。今年度は、小学部19名、中学部14名、高等部34名、合計67名の児童生徒が在籍している。

■研究課題

すべての教員がキャリアの視点を共通理解すると共に、学校生活全体を通して、小学部から高等部までの児童生徒がキャリア発達するための指導・支援にあたり、キャリア教育の充実を図る。

■研究の目的と方法

【研究の目的】

すべての児童生徒の卒業後を見据え、教員が児童生徒と思いや願いを共有したり、共に活動したりする中で、キャリアの視点に立ち、「なぜ・なんのために（目的）」、「何を（内容）」、「どのように（方法）」を明確にした授業を実践し、児童生徒のキャリア発達と教員のキャリア発達を目指す。

【研究の方法】

- ・「なぜ・なんのために」「何を」「どのように」を明確にした授業実践・評価を通して、キャリア発達するための授業づくりを検討する。（授業づくり）
- ・個別の教育支援計画を活用して「本人の願い」を確認し、児童生徒と教員の思いをすり合わせた学習を計画する。（本人の願い）
- ・各教科・領域ごとに、小・中・高の系統性を意識した学習指導略案を作成し、次の学段階に発展する内容や他教科・領域とのつながりを検証する。（連続性、系統性）

■研究概要

【成果】

<「なぜ・なんのために」の明確化による授業づくりの充実>

- ・日々の授業、授業研究会等での授業を検証した結果、授業づくりにおける PDCA サイクルの各項目において成果がみられた。

P (計画)	・学習活動の目的から再確認、単元計画作成による「育てたい力」の明確化
D (実践)	・児童生徒が学習に対する意味づけや価値づけするための「振り返り」の工夫 ・実態に応じた「問い」の工夫 ・目標の明確化による児童生徒の主体的な姿、キャリア発達の姿
C (評価)	・「育成を目指す資質・能力」の3つの柱(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性等」)での評価による児童生徒の学習状況の把握 ・定型文を使った授業評価による目標、手立て、成果の明確化
A (改善)	・評価をもとにした発展的な学習内容の計画、目標の設定

単元計画を作成し、単元を振り返ることは、今までも行われてきたことであるが、本研究をきっかけに、単元計画作成の意義を改めて確認することができた。

<小・中・高の系統性についての深まり>

- ・他学部の学習内容、支援の方法の理解が深まった。また、キーワード探しを通して、社会的職業的自立に向けて小学部段階から大切にしていきたい項目について共通理解を図り、本校で目指す姿をまとめることができた。

<教員のキャリア発達>

- ・「キャリア発達」についての理解が深まり、児童生徒の課題に対する「できた・できない」だけでなく、成長(キャリア発達の姿)を捉えられるようになった。
- ・「なぜ・なんのために」を意識して授業実践に取り組むようになってきた。
- ・教員の積極的な学校経営の参画が見られるようになった。(募金活動、地域との交流)
- ・教員自身もキャリア発達していくことを理解し、基礎的・汎用的能力を伸ばすことができた。

【課題】

<「本人の願い」の捉え>

- ・キャリア発達、授業の充実のために「本人の願い」を学習活動に反映することを目的として取り組んできたが、全職員で十分な議論までに至らなかったため、学校全体での共通理解は不十分であった。「なぜ・なんのため」は、児童生徒側と教員側のそれぞれの側面があることを再度確認し、「本人の願い」をどのように捉えていくのかを明らかにするとともに、「本人の願い」の必要性について教員が理解するための方策を検討する必要がある。

<カリキュラム・マネジメント>

- ・児童生徒がキャリア発達するためには、各教科等で学んだことを生かせる年間指導計画、教科横断的な授業計画の検討が必要である。

<地域協働に向けての取り組み>

- ・深い学びへとつなげていくために、児童生徒が学校で学んだことを生かして地域とかわる学習活動の工夫が必要である。